

「日本人における宗教性およびアイデンティティ
と主観的幸福感の関連」プロジェクト

研究成果報告書

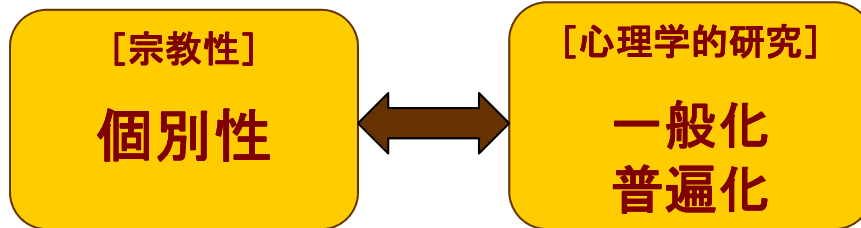
日本人の宗教性はアイデンティ
ティ発達とどのように関わるのか

杉村 和美
(広島大学)

松島 公望
(東京大学)

日本における宗教性とアイデンティティに関する研究
=ほとんどのなされていない

- 日本の宗教風土は複雑であり, 信仰の表明の仕方も異なっている
- ⇒「日本人(全般)」の宗教を特定するのが困難である



日本人の宗教性を追求しようとする, 「**宗教的風土の複雑さ(日本人(全般)の宗教性の捉えにくさ)**」という壁にぶつかり, 思うように研究が進まない

無藤(1979):「自我同一性地位面接(Marcia, 1966)」の日本への導入の研究

この壁にぶつかった研究ではないだろうか...

自我同一性地位の3つの領域

Marcia (1966)

職業

政治

宗教

無藤(1979)

職業

政治

価値観

無藤(1979):予備面接
「宗教」領域の修正過程

- 被面接者:東京大学3・4年生 男子12名
- 「宗教について考えたことがほとんどない。宗教はあってもなくてもいいんじゃないか」=9名/12名

⇒「危機前の拡散」と評定

- 無藤(1979)＝「おそらくこの予備面接での結果は、日本での一般的傾向の反映であろう。以上述べたことからみて、日本青年の自我同一性の確立にあたって、宗教という領域はさほど重要ではないと考えられる」

⇒「宗教」を「価値観」に変更した

「宗教」領域の修正過程の問題点

- 「宗教」領域の質問項目例(Marcia, 1966)

“Have you ever had any doubts about your religious beliefs?”

(あなたはこれまでに自分自身の宗教的信念について疑ったことがありますか)

「宗教」領域の質問項目 (自我同一性地位面接マニュアルより)

- あなたは、ある特定の宗教的な入会を行ったり、宗教的な好みを持っていたりしますか。
- あなたの家族・親族はどうですか。
- かつて教会(church)で積極的に活動していましたか。
- 現在はどうか。
- 多くの宗教的な討論(ディスカッション)をしますか。
- 現在、あなたの両親は、あなたの信念についてどのように感じていますか。
- あなたの信念は、あなたの両親とは異なっていますか。

「宗教」領域の質問項目 (自我同一性地位面接マニュアルより)

- あなたは、自分自身の宗教的信念について疑ったことがありますか。
- それはいつですか。
- それはどのように起こりましたか。
- あなたは、あなたの中で生じた疑問をどのように解決しましたか。
- 現在、あなたにとってそれらの事柄はどのような意味を持っていますか。

予備調査の際の学生のように、「宗教について考えたことがほとんどない。宗教はあってもなくてもいいんじゃないか」になってしまいましたか...?

「宗教」領域の質問項目

=「宗教性が意識されやすい」ユダヤーキリスト教文脈に基づいた内容

- それらの質問項目を基に、「**宗教性が意識されにくい**日本人大学生」に予備面接を行った。その結果は、無藤(1979)が示した通り、「宗教について考えたことがほとんどない。宗教はあってもなくてもいいんじゃないか。」になるのは当然であろう。

「価値観」領域の創出ではなく、日本人に適用できる「宗教」領域の検討する方向に進んでいかなかったのか...?

- 実証的宗教心理学的研究の永きにわたる沈滞を鑑みると、それらを検討するだけの研究資源がこの当時に存在していたとも思えず、その作業は現実的に困難であろう。
- 無藤(1979)に限らず日本の心理学的研究ではこのような状況に陥り、その結果、「宗教性は取り上げたいが、実証的に扱うのは難しい」となり、日本で宗教性はほとんど扱われることはなく、現在に至ってしまったように思われる。

本当に日本人の宗教性とアイデンティティ発達とは関連がないのだろうか...?

これらの問題を打破する ための新たな提案

- ①研究対象の明確化
- ②尺度の階調化(グラ
デーション化)

①研究対象の明確化

- 自分が調査したい**研究対象**をできる限り**明確**にして研究を構築していく。
- 明確にすることにより、「捉えにくい」を「**捉えやすく**」する。
- できる限り宗教別に分類し、各宗教の特徴を浮き彫りにしていく。
- 本研究では、「神道群」「仏教群」「キリスト教群」「信仰なし群」に分類した。

②尺度の階調化 (グラデーション化)

- 「宗教性」を連続的に捉え、**階調化(グラデーション化)**する。
- 「ユダヤーキリスト教文脈」～「日本人の宗教文脈(宗教風土)」で捉える。
- 本研究では、「宗教性尺度(Saroglou, 2011)」「宗教意識尺度(西脇, 2004)」「無常観尺度(浦田, 2009)」を使用した。

宗教性尺度(Saroglou, 2011)

- ユダヤーキリスト教文脈による宗教性を4つの次元で捉えた尺度
⇒Saroglou(2011)は文化相互間(cross-cultural)・宗教相互間(cross-religious)を想定した尺度としているが、我々の目からみると“ユダヤーキリスト教文脈”に依存している⇒**文化, 文脈の違いを感じざるを得ない。**

①Believing(知識, 信念)

[例]私が自分の宗教に深い思い入れがあるのは、人生の目的を持つ助けになるからである。

②Bonding(感情, 行動)

[例]宗教的儀式, 活動や実践は、私を肯定的な気持ち(ポジティブな気持ち)にしてくれる。

③Behaving(道徳, 倫理, 効果)

[例]宗教は、道徳的に生活を送ろうとする時に、私にとっての助けとなる。

④Belonging(共同体)

[例]私は、宗教的な集団やサークル, コミュニティに所属することが楽しい。

宗教意識尺度(西脇, 2004)

- ユダヤーキリスト教文脈と日本人の宗教文脈との中間の位置にある尺度[3つの下位尺度]

①神仏の関与的存在

= 自分に関与している存在として神仏を意識していることを示す。

[例] 絶対的な唯一の神または仏がいると思う

②宗教肯定

= 特定されない宗教一般に対する肯定的な態度を示す。

[例] 宗教は、心の平安や幸福をもたらしてくれると思う

③自然・神秘

= 生命現象や自然現象のなかに霊的なものを認めたり、何らかの神秘的な力を認めようとすることを示す。

[例] 大自然—大空, 海, 山々など—には何か神秘的な力があると思う

無常観尺度(浦田, 2009)

- 仏教伝来以降の日本における思想形成に深く関わってきた日本の宗教文脈に拠った尺度[3つの下位尺度]

①生と死

= 自己を含めた人生の無常を表す。

[例] 人が生きて、やがて死ぬことについて考える

②詠嘆的無常観

= 人生や世の中の移ろいやすさを表す。

[例] 全てははかなく移ろいゆくものであると思う

③自覚的無常観

= はかなさを受け入れることの大切さやその真実性を表す。

[例] 人生は、はかないからこそ大切にしなければならないと思う

調査対象者

- 宗教者[神道(出雲大社教), 仏教(浄土真宗, 曹洞宗), キリスト教(聖公会, ホーリネス系教会):回収数 657名, 有効回答数 571名(有効回答率 86.91%)
- 大学生[関東圏2大学, 中京圏2大学, 中国圏1大学]:回収数 1079名, 有効回答数 993名(有効回答率 92.03%)

「信仰の有無」と「宗教教団名」の両方に回答した宗教者の人数／平均年齢(SD), 年齢範囲

- 宗教者全体 447名(男性 173名, 女性 273名, 不明 1名)／38.38歳(22.68歳), 18～95歳
- 神道群 103名(男性 31名, 女性 72名)／48.99歳(13.69歳), 18～93歳
- 仏教群 82名(男性 46名, 女性 35名)／68.62歳(9.38歳), 28～87歳
- キリスト教群 262名(男性 96名, 女性 166名)／60.99歳(16.06歳), 18～95歳
- 信仰なし群 34名(男性 20名, 女性 14名)／55.09歳(17.50歳), 18～87歳

大学生／平均年齢(SD), 年齢範囲

- 大学生全体 993名(男性 483名, 女性 507名, 不明 3名)／20.21歳(2.00歳), 18～43歳
- 信仰あり群 214名(男性 89名, 女性 125名)／20.56歳(2.64歳), 18～43歳
- 信仰なし群 756名(男性 382名, 女性 374名)／20.12歳(1.77歳), 18～38歳
- 無回答 20名(男性 12名, 女性 8名)

※大学生は宗教別に分類できるだけ人数がいなかったの「信仰あり群」とした。

調査時期および調査方法

- 調査時期
2015年11月～2016年5月
- 調査方法
調査実施場所の制約や事情により, (1) 郵送法, (2)メンバーが赴き直接実施(その場で回収の場合と郵送にて回収の場合があった)という2つの方法で行った。

分析に使用する尺度

1. 宗教性に関する尺度[尺度構成後の項目数]

[1]宗教性尺度(Saroglou, 2011): ①believing[3], ②bonding[3], ③behaving[3], ④belonging[3]

[2]宗教意識尺度(西脇, 2004): ①神仏の関与的存在[7], ②宗教肯定[7], ③自然・神秘[4]

[3]無常観尺度(浦田, 2009): ①生と死[4], ②詠嘆的無常観[4], ③自覚的無常観[4]

2. アイデンティティに関する尺度[尺度構成後の項目数]

● エリクソン心理社会的段階目録[EPSI](畑野他, 2014): ①confusion(混乱)[6], ②synthesis(統合)[6]

→本研究では、3つの宗教性尺度[10の下位尺度]とEPSI[2つの下位尺度]との関連(相関分析, 重回帰分析)を検討する。

相関分析結果

	神道群 (N=98-103)		仏教群 (N=75-80)		キリスト教群 (N=252-260)		信仰なし群 (N=33-34)		大学信仰あり群 (N=211-214)		大学信仰なし群 (N=746-755)	
	confusion	synthesis	confusion	synthesis	confusion	synthesis	confusion	synthesis	confusion	synthesis	confusion	synthesis
believing	.01	.35 **	.07	.20 *	-.13 *	.30 **	.12	-.03	.25 **	-.11	.22 **	-.11 **
bonding	-.18 *	.47 **	.22	.06	-.12	.19 **	.27	-.25	.10	.00	.11 **	.02
behaving	.05	.28 **	.03	.07	-.20 **	.19 **	.13	-.07	.09	.08	.01	.15 **
belonging	.08	.20	.09	-.06	-.14	.26 **	.27	-.31	-.06	.25 **	-.04	.07
神仏の関与的存在	.02	.23 *	.19	.14	-.23 **	.25 **	-.14	.19	.01	.27 **	.07	.00
宗教肯定	.00	.24 *	.04	.05	-.23 **	.24 **	-.06	-.09	-.08	.16 *	.02	-.01
自然・神秘	.00	.27 **	.05	.17	-.10	.01	-.24	.33 *	.11	.11	.06	-.02
生と死	.15	.06	.13	-.05	.02	.11	-.30 **	.27	.08	.08	.10 *	-.02
詠嘆的無常観	.41 **	-.15	.18	-.30 **	.24 **	-.09	-.29	.15	.04	.11	.12 **	-.05
自覚的無常観	.13	.12	.07	-.01	.06	.15 *	-.38	.38	.07	.12	.10 **	-.06

p<.01 p<.05

重回帰分析結果[confusion]

	神道群 (N=94)	仏教群 (N=71)	キリスト教群 (N=235)	大学生 信仰あり群 (N=205)	大学生 信仰なし群 (N=723)
目的変数: confusion	β	β	β	β	β
believing	.02	-.06	.03	.07	.11
bonding	-.24 *	.47 *	.03	-.01	.05
behaving	.04	-.10	-.20 *	.02	.04
belonging	.08	-.27	-.01	.09	-.01
神仏の関与的存在	.22	.35 *	-.11	-.09	-.17 *
宗教肯定	.18	-.14	-.05	.03	.06
自然・神秘	-.12	-.27	-.03	-.14	.02
生と死	.15	.05	-.02	.10	.10 *
詠嘆的無常観	.39 **	.29	.27 **	.28 **	.26 **
自覚的無常観	-.01	-.07	.02	-.13	-.17 *
R^2	.24 **	.20 *	.14 **	.10 *	.10 **

$p < .01$ $p < .05$

※宗教者「信仰なし群」は標準偏回帰係数が不適切であったために除外した。

重回帰分析結果[synthesis]

	神道群 (N=94)	仏教群 (N=71)	キリスト教群 (N=235)	大学生 信仰あり群 (N=205)	大学生 信仰なし群 (N=723)
目的変数: synthesis	β	β	β	β	β
believing	.10	.21	.19	-.12	-.18 **
bonding	.39 **	-.08	.01	.02	-.03
behaving	.10	.05	-.04	-.01	.08
belonging	-.09	-.07	.10	.06	-.01
神仏の関与的存在	-.14	-.03	.15 *	.11	.17 **
宗教肯定	.04	-.05	.03	.20 *	-.02
自然・神秘	.17	.18	-.18 *	.05	-.06
生と死	-.03	-.01	.00	-.13	-.02
詠嘆的無常観	-.32 **	-.40 *	-.14	-.17	-.23 **
自覚的無常観	.17	.16	.15	.23 *	.28 **
R^2	.30 **	.19 *	.15 **	.12 **	.09 **

$p < .01$ $p < .05$

※宗教者「信仰なし群」は標準偏回帰係数が不適切であったために除外した。

分析結果＋考察(有意な結果のみを記載)

【考察:全ての分析から見えてきたこと】

- 宗教者, 大学生, 宗教教団の違い, 信仰の有無に関係なく, 「詠嘆的無常観」はアイデンティティの統合の妨げとなる。
→「詠嘆的無常観」が意味する「人生や世の中のうつろいやすさ」は「アイデンティティ統合」と相容れないのではないだろうか。

神道群

[1] 相関分析

- ①confusion (アイデンティティ混乱)
bonding=-.18 / 詠嘆的無常観=.41
- ②synthesis (アイデンティティ統合)
believing=.35, **bonding=.47**, behaving=.28 / 神仏の関与的存在=.23, 宗教肯定=.24, **自然・神秘=.27**

[2] 重回帰分析

- ①confusion (アイデンティティ混乱)
bonding=-.24 / 詠嘆的無常観=.39
- ②synthesis (アイデンティティ統合)
bonding=.39 / 詠嘆的無常観=-.32

神道群

- 神道群は「bonding」である。「bonding」の質問項目をみると、儀式を含め宗教的实践を意味した内容となっている。
→儀式・実践を重視する神道の特徴に適っているのではないだろうか。
→「儀式・実践を大切に作る心(思い, 姿勢)」からアイデンティティが統合していく面がある。
- 宗教者のなかでは唯一、「自然・神秘」と有意な正の相関がある。
→自然との関わり大切さが自らのアイデンティティにつながっていくのではないだろうか。
- 神道の信仰「自然を神々の意志と位置づけ, その神々と対話するための祭祀を行う」に合致する。

仏教群

[1] 相関分析

- ①confusion (アイデンティティ混乱)
全ての下位尺度で有意な相関なし
- ②synthesis (アイデンティティ統合)
believing=.20 / 詠嘆的無常観=-.30

[2] 重回帰分析

- ①confusion (アイデンティティ混乱)
bonding=.47 / 神仏の関与的存在=.35
- ②synthesis (アイデンティティ統合)
詠嘆的無常観=-.40

仏教群

- 仏教群は有意な相関が少ない。
- 仏に照らされ、自己の混乱さを自覚しながら、信心 (believing) を頼りに生きていくというのは、まさに仏教の信者としての生き方そのものである。
- 混乱しているからこそ、信仰としての「神仏の関与的存在」が正の相関を示し、儀式や実践 (bonding) もそうした混乱しながらも生きている自分に気づくための営みなのである。
- 仏教の信者にとっては、「混乱」も決してマイナスではなく、自己への気づきと自己形成への出発点となる。そして宗教 (信仰) は指針となり、自らの信心につながり、力にもなる。
- この結果は「アイデンティティ」の有り様について新たな視点を提供するものではないだろうか。

キリスト教群

[1] 相関分析

① confusion (アイデンティティ混乱)

behaving=-.20 / 神仏の関与的存在=-.23, 宗教肯定=-.23 / 詠嘆的無常観=.24

② synthesis (アイデンティティ統合)

believing=.30, bonding=.19, belonging=.26, behaving=.19 / 神仏の関与的存在=.25, 宗教肯定=.24 / 自覚的無常観=.15

[2] 重回帰分析

① confusion (アイデンティティ混乱)

behaving=-.20 / 詠嘆的無常観=.27

② synthesis (アイデンティティ統合)

神仏の関与的存在=.15, 自然・神秘=-.18

キリスト教群

- 仏教群とは異なり、有意な相関が多い。
→ 複数の側面で宗教性とアイデンティティとの関連がある。
→ 今回用いた尺度は「**キリスト教的な内容(ユダヤーキリスト教文脈)**」が多いといったことも影響しているのかもしれない。
- クリスマンにとって宗教性は**アイデンティティを統合させるものである。**
- 唯一、「**自覚的無常観**」が有意な正の相関を示した。
→ 「個人の信仰を自覚的に意識する」との傾向がみられたのではないか。
- しかし、「**自然・神秘**」が負の結果を示した。
→ キリスト教の教えとは異なる側面では統合を抑制する結果となるのではないか。

信仰なし群

[1] 相関分析

① confusion (アイデンティティ混乱)

生と死=-.30

② synthesis (アイデンティティ統合)

自然・神秘=.33

- 宗教者のグループなのに「信仰なし群」である。
→ 「**死**」について考えることがアイデンティティのconfusionを抑えるということか。
- **自然に対する畏敬**がアイデンティティの統合に関連する。
→ 神道群に近い。キリスト教群とは異なる傾向である。
→ 日本人の宗教性の違いのヒントがあるのではないか。

大学生信仰あり群

[1] 相関分析

① confusion (アイデンティティ混乱)

詠嘆的無常観=.25

② synthesis (アイデンティティ統合)

神仏の関与的存在=.25, 宗教肯定=.27, 自然・神秘=.16

[2] 重回帰分析

① confusion (アイデンティティ混乱)

詠嘆的無常観=.28

② synthesis (アイデンティティ統合)

宗教肯定=.20 / 自覚的無常観=.23

大学生信仰あり群

●「無常観」「自然・神秘」との有意な関連が他の群に比べて多い。

→ 青年期という揺れる時期だからこそ、「無常観」「自然・神秘」のような考え方・価値観に傾倒していくのだろうか。

→ 「宗教肯定」も有意な結果となったのもそのような面が現れたのか。

※ 「信仰あり」にまとめてしまったことで、各宗教教団の特徴が重なってしまった可能性をあるのではないだろうか。

→ 「研究対象の明確化」を行っていくことの意義がこのような側面からも見えてくるのではないか...?

大学生信仰なし群

[1] 相関分析

① confusion (アイデンティティ混乱)

生と死=.11 / 詠嘆的無常観=.22

② synthesis (アイデンティティ統合)

詠嘆的無常観=-.11

[2] 重回帰分析

① confusion (アイデンティティ混乱)

生と死=.10, 詠嘆的無常観=.28, 自覚的無常観=-.17 / 神仏の関与的存在=-.17

② synthesis (アイデンティティ統合)

believing=-.18 / 神仏の関与的存在=.17 / 詠嘆的無常観=-.23, 自覚的無常観=.28

大学生信仰なし群

- 信仰あり群と同様に「無常観」との関連がみられた。
- 「生と死」がアイデンティティのconfusionと有意な正の相関がみられた。
→ 宗教者の「信仰なし群」との反対の結果。
- 「死」について考えることがconfusionを高める。
→ 宗教者の信仰なし群と異なり、年齢が若いので死に対する実感が乏しい。「死」に対して漠然とした不安を有するのではないだろうか。その結果、confusionを高めるのではないだろうか。
→ 年齢を重ねることにより、「死」に対する見方が変化していくのか。

全体を通して①

- 無常観尺度の「詠嘆的無常観」との関連も新たな示唆になるのではないか。「詠嘆的無常観」のみ宗教者, 大学生, 宗教教団の違い, 信仰の有無に関係なくアイデンティティの統合の妨げとなるとの結果が示された。「詠嘆的無常観」は“日本人であること”の現れと捉えることができるか...
- 信仰なし群についても宗教者, 大学生の「生と死」の違いは興味深い結果である。
- 大学生が信仰あり群, 信仰なし群共に「無常観」「自然・神秘」に関連があるとの結果も興味深い。青年のもつ「虚しさ」との関連があるのではないだろうか。

全体を通して②

- 神道群, 仏教群, キリスト教群, 信仰なし群, 大学生信仰あり群, 信仰なし群とそれぞれ異なる特徴を示した。
- 宗教者の分析では, それぞれの教団の教えの特徴に反映している面もあった。

	神道群 (N=98-103)		仏教群 (N=75-80)		キリスト教群 (N=252-260)	
	confusion	synthesis	confusion	synthesis	confusion	synthesis
believing	.01	.35 **	.07	.20 *	-.13 *	.30 **
bonding	-.18 *	.47 **	.22	.06	-.12	.19 **
behaving	.05	.28 **	.03	.07	-.20 **	.19 **
belonging	.08	.20	.09	-.06	-.14	.26 **
神仏の関与的存在	.02	.23 *	.19	.14	-.23 **	.25 **
宗教肯定	.00	.24 *	.04	.05	-.23 **	.24 **
自然・神秘	.00	.27 **	.05	.17	-.10	.01
生と死	.15	.06	.13	-.05	.02	.11
詠嘆的無常観	.41 **	-.15	.18	-.30 **	.24 **	-.09
自覚的無常観	.13	.12	.07	-.01	.06	.15 *

p<.01 p<.05

キリスト教群における宗教性尺度, 宗教意識尺度(「神仏の関与的存在」「宗教肯定」)と「synthesis」との関連⇒「アイデンティティ」概念も“ユダヤーキリスト教文脈”に依存している面があるのではないか...?

全体を通して③

- 本研究を通して、「日本人の宗教性もアイデンティティに関連する」ことが示されたのではないだろうか。
- 宗教教団ごとにそれぞれの「宗教性の特徴(違い)」がある。そのことを考慮することにより、アイデンティティとの関連が浮き彫りになるのではなる。

それらを測るために、
研究対象の明確化
尺度の階調化(グラデーション化)

を行っていくことを提案したい。
それらの行うことにより、「日本におけるアイデンティティ研究」が新たなステージに進むのではないだろうか。

今後も、日本人にとっての宗教の
意味と重要性を明らかにすべく、
研究を重ねてまいります

調査にご協力いただき
誠にありがとうございました